

「津久井やまゆり園事件から 人権や命の重みを考える」

6月29日(木) 10:00~12:00 石狩市、石狩市地域自立支援協議会

P&Aいしかり 共催

石狩市総合保健福祉センターりんくる視聴覚室

松泉グループ総合施設長 光増昌久

(障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会 代表)

19のいのちが奪われた相模原障がい者殺傷事件を共に考える集い

黒岩知事
の発言

施設
立て替え

入所施設
の見直し

本人の
意向確認

家族の
意向

国の
検証

地域生活への
移行

グループホームの
体験入居

被害者の
匿名性

県の
検証

殺害・殺傷・虐待・差別・偏見・差別・偏見・
優生思想・ヘイトクライム等
入所施設の在り方、意思決定支援等

マスコミ
の取り
あげ方

加害者
の発言

加害者の
優生思想

措置入院

精神保健
福祉法改正

当事者
の発言

しょうがいしゃけんりいいんかい
ロバートマーティン2016年障害者権利委員会に
立候補 2017年～2020年 昨年6月選ばれました
りっこうほ

ニュージーランドから



Inclusion
international 



• 日本



石川 准さん
障害者政策委員会委員長

• ニュージーランド



ロバート・マーティン
IHC(NZの親の会)職員

だれかわかりますか

2016. 6. 15. 国連 障害者権利委員に



ロバート・マーティン ニュージーランド

私は日本を思い、特に日本の障害者の方々を思っています。私の心と想いはこの悲劇の時に皆様と共にあります。私たちは、ほかの悲劇に巻き込まれた人々を思い出すのとまさに同じように、障害者のことを思い出す必要があります。国連障害者権利委員会での私の役割の中で、このような悲劇を再び起こさないために、障害者が確実にかけがえのない市民として見られるよう私は懸命に努力します。世界の人々に障害者を仲間の人間として、本当の人間として見てもらうことが必要です。「キアカハ」強くあり続けましょう。

「津久井やまゆり園」で 亡くなった方たちを追悼する集会

海外からのメッセージ紹介から引用

2016年8月6日 東京大学先端科学技術研究センター

本論に入る前に！

津久井やまゆり園事件が国民に投げかけるもの！

T4作戦は、[ナチス・ドイツ](#)で[優生学](#)思想に基づいて行われた[安楽死](#)政策である。[1939年](#)10月から開始され、[1941年](#)8月に中止されたが、安楽死政策自体は継続された。「T4」は安楽死管理局の所在地、[ベルリン](#)の「ティーアガルテン通り4番地（現在同地には[ベルリン・フィルハーモニー](#)がある）を短縮したもので、[第二次世界大戦](#)後に付けられた組織の名称である。



ハダマー安楽死施設の「シャワー室」(ガス室)

ウィキペディアから一部引用

T4作戦

バスで移送される障害者



9月24日(土)NHKEテレ 午後11時00分～ 午前0時00分

アンコール「ホロコーストのリハーサル ～ 障害者虐殺70年目の真実」

ユダヤ人大虐殺に比べて、表だって語られてこなかった障害者の虐殺。終戦から70年たち、事実に向き合う動きが始まっている。きっかけの一つは5年前、ドイツ精神医学精神療法神経学会が長年の沈黙を破り、過去に患者の殺害に関わったと謝罪したこと。学会は専門家に調査を依頼、この秋、報告書がまとまった。何があったのか。日本の障害者運動を率いてきた藤井克徳さん(自身は視覚障害)が現場を訪ねる。語りは大竹しのぶさん。

相模原事件を特集した雑誌、単行本など

相模原事件と
ヘイトクライム

保坂 展人

奪ってもいい命など
存在しない——

優生思想の根に囚われなために、
今、私たちがなすべきこと

定価（本体1220円＋税）

現代思想

10月号

相模原障害者
殺傷事件

相模原障害者殺傷事件が
問いかけるもの

香山リカ、福島智

生きて
かった

相模原障害者殺傷事件が
問いかけるもの

“生きるに値しない命”
などない—— 私たちは、この事件の被害者
をどう見ればいいのか

香山リカ、福島智

福祉労働

153

相模原・障害者施設
殺傷事件

何が問われているのか

相模原障害者施設殺傷事件から——

Socio-education

ふくしと教育

2017-22

特集一七・二六(相模原殺傷)事件を考える

相模原事件をどう考えるのか / 障害者施設殺傷事件の背景 / 障害者施設殺傷事件の背景 / 障害者施設殺傷事件の背景

発行：大学出版会

障害を持つ息子へ

～息子よ、そのまま、いい～

神戸金史

「障害者なんていなくなればいい」
——犯人はそう言った。

2016年7月、日本中に衝撃が走った相模原殺傷事件。過熱する報道、増幅する怒意の中、ある父親の詩が人々の心を打った。「NEWS23」などで聞く際に応じた詩とその背景にあった自閉症の息子と家族の物語。

PSYCHIATRY

相模原
事件が
私たちに
問うもの

2017 86

精神医療

相模原
障害者
殺傷事件

立岩真也
杉田俊介

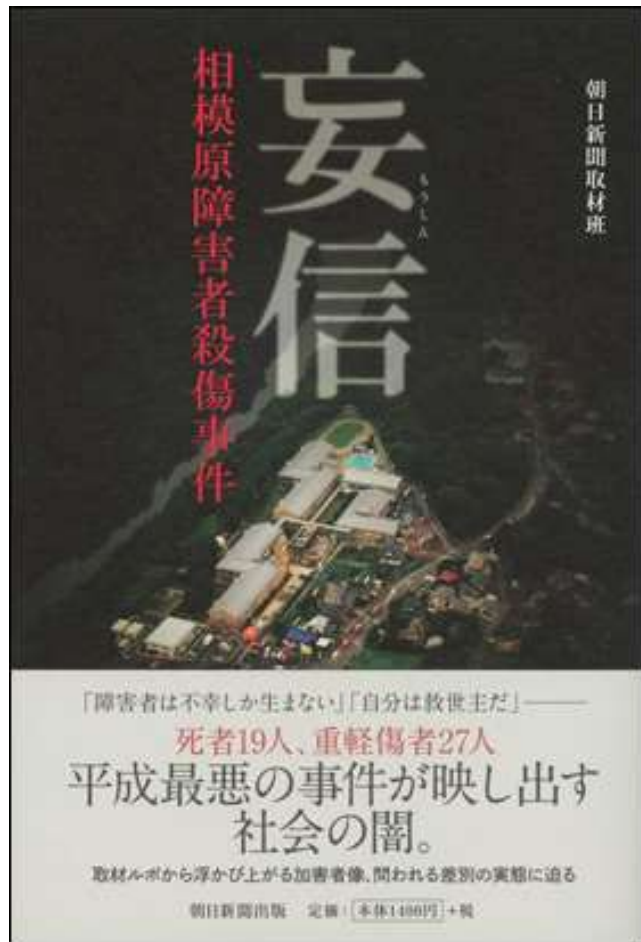
うつ病から
相模原事件まで

精神医学ダイアログ

井原 裕

相模原障害者施設
殺傷事件

～ 真の幸せとは ～

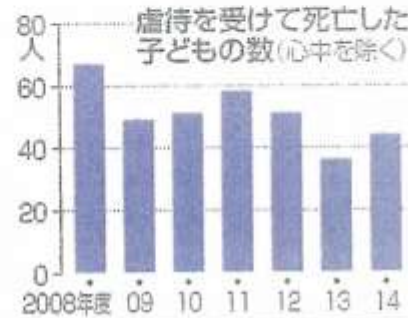


最新刊

津久井やまゆり園事件（相模原殺傷事件）が問いかける問題と課題
皆さんは、どう考えますか！？

虐待死 1歳未満6割

14年度 過去最悪



厚労省によると、昨年3月までの1年間に虐待で亡くなった子どもは男20人、女22人、不明2人の計44人。1歳未満が27人(61・4%)と最多で、3歳が7人(15・9%)、1歳が4人(9・1%)だった。不明の1人を除き最も年齢が高いのは14歳(1人)。「身体的虐待」(24人、54・5%)と「ネグレクト(育児放棄)」(15人、34・1%)が大半を占める。「心理的虐待」の1件は、14年7月に東京都西東京市で養父に「24時間以内に自殺しろ」と迫られた中2男子生徒が自殺した事案という。虐待死した44人に対する加害者は実母が28人、実父3人、実母と実父の両方だったのは2人。他は実母の交際相手や養父などだった。動機は「子どもの存在の拒否・否定」「保護を怠った」「しつけのつもり」など。妊娠期の問題として、「望まない妊娠」だった実母が24人、「妊婦健診の未受診」が18人だった。

一方、死亡44人の事案に関わっていた児童相談所職員は、それぞれ1年間に平均104件の事案を担当。

2014年度に虐待を受けて死亡した18歳未満の子どもが、前年度に比べて8人増の44人(無理心中を除く)に上ったことが厚生労働省専門委員会のまとめで分かった。1歳未満が過去最高となる6割超。加害者が実母だったのも6割超だった。「望まない妊娠」など母親が抱える問題が目立つ。

「望まぬ妊娠」背景

児童相談所長でNPO法人「児童虐待防止協会」の津崎哲郎理事長の話

調査開始以来、最も被害が多いのは1歳未満という傾向が続いている。多くは、母親が望まないのに妊娠し、費用がないなどの理由で中絶しなかったケースだろう。こうした人は病院に行かないことも多く、支援が届きにくい。国や自治体が医療機関と連携して匿名の相談窓口を整備し、適切な支援機関につなげるような環境整備が重要だ。若年層や経済的に苦しい家庭へのサポートもより手厚くする必要がある。

支援へ環境整備を

また12、14年度に見相などの施設に入所経験がある子どもで虐待死したのは14人と確認。うち9人は家庭に戻って半年未満に死亡しており、「関係機関が援助方針などについて緊密に連携することが重要」としている。

新出生前診断1万人受診 検査後中絶、2年で221人

日本経済新聞 2015/6/27付

妊婦の血液で胎児のダウン症などの染色体異常を調べる新出生前診断を実施している病院グループは26日、検査開始後2年間の実績を公表、2年目の2014年度に1万60人が受診したことが分かった。1年目の7740人から大幅に増えた。検査で異常が確定するなどして中絶したのは2年間で221人だった。

おなかに針を刺して子宮内の羊水を採取する羊水検査も13年に約2万600件と過去最多になったのが25日に明らかになった。胎児の遺伝疾患を調べる検査が広がる傾向が浮き彫りになった。

グループは13年4月の導入以来2年間の実績を集計。1万7800人が受診し、295人が陽性と判定された。確定診断の羊水検査に進んだ253人のうち、230人の異常が確定した。確定診断で異常なしとされた人も23人おり、誤って陽性と判定される「偽陽性」が9%となった。

陽性判定を受けた295人のうち、中絶したのは221人、妊娠を継続した人が4人、胎児が死亡してしまったのが41人などだった。確定診断を受ける前に中絶した人も数人いた。

出生前検査・診断について考えている 妊娠中のみなさまへ

～公益財団法人 日本ダウン症協会 (JDS) より～



まず、あなたに「おめでとう」と言いたいと思います。そして、あなたのからだの内に育ち始めた「新しいいのち」に「はじめまして」と、お伝えします。今まで存在していなかった新しい命、おなかの中の赤ちゃんのことを考えるスタートです。さて、今日、どのような思いをもって、このチラシを手にとったか考えているのでしょうか。

公益財団法人日本ダウン症協会 (JDS) は、ダウン症のある人たちとその家族、支援者でつくる会員組織です。全国に約5,700名の会員 (特別会員 <旧賛助会員> 約500名を含む) がいて、約55の支部・専攻部をもちます。前身の親の会が発足したのが1963年で、約50年間、ダウン症の人たちとその家族の生活の質向上を目指して活動しています。活動内容は、ダウン症に関する知識の普及啓発、情報の提供、調査研究、ダウン症のある人たちとその家族に対する相談などです。

★JDSについての詳細はホームページをご覧ください <<http://www.jdss.or.jp>>



「妊娠してから、何となく心が落ちる気がします」

たとえ期待の赤ちゃんであっても、妊娠に気づいた女性は心が揺れます。妊娠してしばらくの間、女性は相反する思いを抱く経験をするそうです。いのちを授かって「うれしい、がんばろう」と喜びながらも、「どうしよう、育てる自信がない、妊娠前に戻りたい」といった不安な思いや解放されたい感情が湧いてきます。

また、妊娠初期には、つわりなどの不快症状もあり、心身ともにすっきりしないときです。体調が悪いときや不安な思いが強いときは、様々なことを悪い方に考えがちになります。

しかし、心も体も少しずつ慣れてきて落ち着いてくるでしょう。



「おなかの赤ちゃんが無事に育っているかどうか心配です」

あなたが、おなかの赤ちゃんのために「元気に育ちますように。元気に生まれてきますように」と願うことは、当然のことです。しかし、時に「もしも元気がなかったらどうしよう…」という考えがよぎることがあります。

この願いと不安は、妊娠中、出産中、そして生まれてからも、ずっとあなたの心に在り続けるでしょう。もしも不安な気持ちが長く続いたときは、「どうして不安になるのか」を振り返ってみましょう。

- ・周囲からのプレッシャーで「優秀で強い子どもを産まなければいけない」と思い込んでいるのではないかと。
- ・周囲が無関心で「一人で育てていかなければならない」と思

い込んでいるのではないかと。

赤ちゃんも、あなた自身も、無条件に尊厳存在です。この世の中にパーフェクト、完全な人はいません。一人ひとりの個性が尊重され、助け合い、分かち合って生きていける社会なら、どんなにすばらしいでしょう。

妊娠中は、改めて人と人との関係を考える良い機会です。まずは、あなたの願い事や不安な気持ちをパートナーやご家族、親しいお友達に伝えてみませんか。あるいは、妊婦健診で出会う医師や助産師、あなたの町の保健師も、あなたの身近にいる支援者です。

そして、JDSの電話相談もぜひ活用してください。



「出生前検査を受けようかどうか迷っています」

あなたは、どうして出生前検査を受けようと思ったのでしょうか？ そして、出生前検査について十分な説明を受けましたか？ 突然、「あなたの赤ちゃんには何らかの病気がある可能性が高い。出生前検査をして染色体を確認し、赤ちゃんの治療を必要とします」と告げられたときは、それを理解することは難しいと思います。ですから、産科医や助産師、関係する医療者から丁寧な説明を受けてください。できれば、あなたのパート

ナーと一緒に説明を受けましょう。また、あなたがどうしてもわからないと思う気持ちを伝えてケアを受けてください。

染色体異常の可能性があると告げられたとき、また、そのような心配があって出生前検査を考えているときも、出生前検査についてよく説明を受けてください。出生前検査の目的・方法だけでなく、出生前検査の対象 (ダウン症など) の最新の情報についても説明を受けましたか？ そして、予想される結果とその後

(編集: ペップリ)

▼ (続きから)

選択肢についても説明を受けて理解できたでしょうか？

出生前検査を受けて、それがあなたの望まない結果であったとき、あなたはどのように考えていますか？ そこまで考えたときには、「検査をするか」または「しないか」の間で気持ちが揺れるでしょう。結論を出すには一定の時間が必要で、いつまでに決めなくてはならないか、検査の説明をした医師に確認しておき

ましよう。

結論を出すにあたって、誰かに話を聞いてもらいながら考えることも有効です。妊婦健診でカウンセリングやケアを受けられるかどうか、聞いてみましょう。もちろん、ご要望があれば、私たちJDSの電話相談でも応じていますので、ご連絡ください。



「出生前検査を受けないことにしましたが、不安が消えません」

健康に生まれた赤ちゃんでも病気になることはありますし、胎がいのない赤ちゃんでも不慮の事故などによって胎がいをもつことはあります。将来のこと、わからないことだらけです。

今、確かなことは、あなたと赤ちゃんが出会う時がやがて訪れる、ということです。ですから「迎える準備」に取り組んでみませんか。

<迎える準備は自由な思いで行ってください>

- 温かい心で迎えよう。
- わたしたちのところにきてくれて「ありがとう」と言おう。
- 何があっても守ろうと誓おう。
- 「いつも一緒だよ」と語りかけよう。
- 家族の輪の中で迎えよう。



「出生前検査を受け、今、不安な思いで結果を待っています」

あなたの願いがかなう結果であることを祈りながら待っています。

検査結果を待つ間も、おなかの赤ちゃんは成長していきま。胎動を感じるようになっていられるかもしれません。お子さんを愛おむ気持ちが自然と高まっていくことでしょう。どうぞその気持ちに蓋をしないで、赤ちゃんに話しかけてあげてください。

もしかしたら、検査を受けようと思ったときと、今は、思いや考えが変化しているかもしれません。「今はどんな結果であろうと育てていきたい」と思ったとき、新たに得たい情報も増えるでしょう。

JDSがお力になれるかもしれません。いつでもご連絡ください。



「検査の結果、赤ちゃんに染色体異常があると告げられました」

赤ちゃんの検査結果はダウン症でしたか？ 育てていく自信がない… 確かに育っている命がある… どうしよう… とても混乱し不安でいっぱいでしょう。

あなた一人でその思いを抱えなくてください。これからどうするか、あなたのパートナーや家族とよく話し合ってください。そして、これから決めるためには正しい知識と情報が必要で、JDSにはあなたが必要とする支援や情報があります。

ホームページの「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」もぜひ読んでみてください。そして、どうぞ遠慮なくJDSに連絡をください。あなたの思いを話してください。心を開いてあなたの気持ちを受け止めます。

「出生前診断を受けました。これからのことを聞きたい」と率直に伝えてくださって大丈夫です。

(協力) 中込さと子 (日本遺伝看護学会 理事長・山梨大学大学院 教授)

※JDSは、出生前検査・診断の技術そのものに対して、特に見解を示すことはありません。また、出生前検査(診断)を一人ひとりがどう理解し、選択するかについては、賛成や反対の意見を表明することはありません。

わたしたちは、ダウン症についての正しい知識、ダウン症のある人たちとその家族の真の姿を多くの方に知ってほしいと心から願っています。



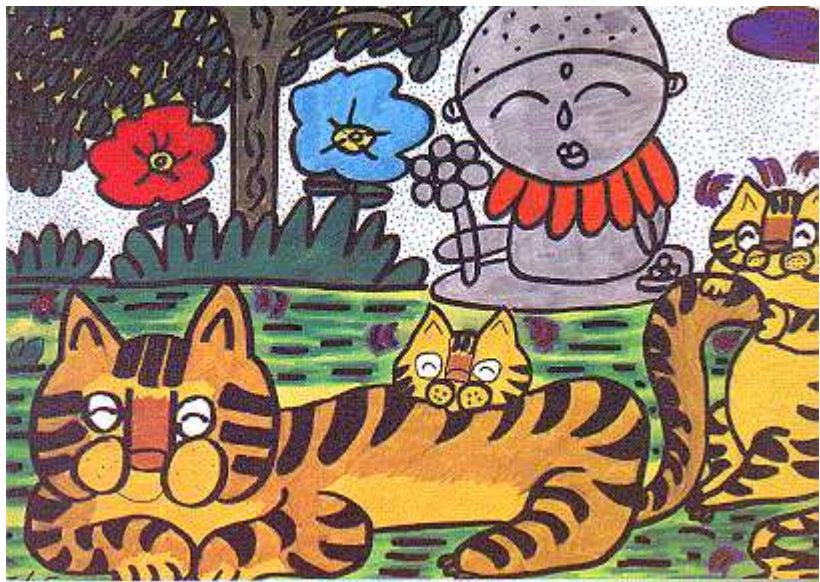
● 公益財団法人日本ダウン症協会 (JDS) へのご相談

■ 相談時間 / 月曜日から金曜日の10:00~15:00
TEL: 03-6907-1824 FAX: 03-6907-1825
メール: info@jdss.or.jp

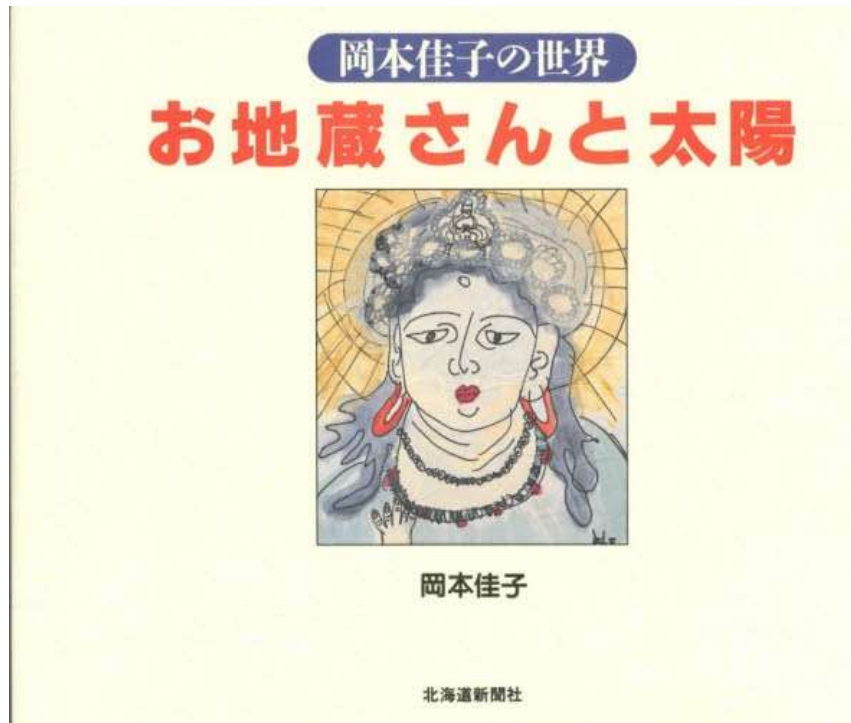
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11 < JDSホームページ: <http://www.jdss.or.jp> >

● 日本遺伝看護学会へのご相談 / メール: info@idenkango.com

★このチラシは、JDSのホームページからダウンロードできます。【PDFはこちら】 http://www.jdss.or.jp/project/05_05.html



画家
岡本佳子さん





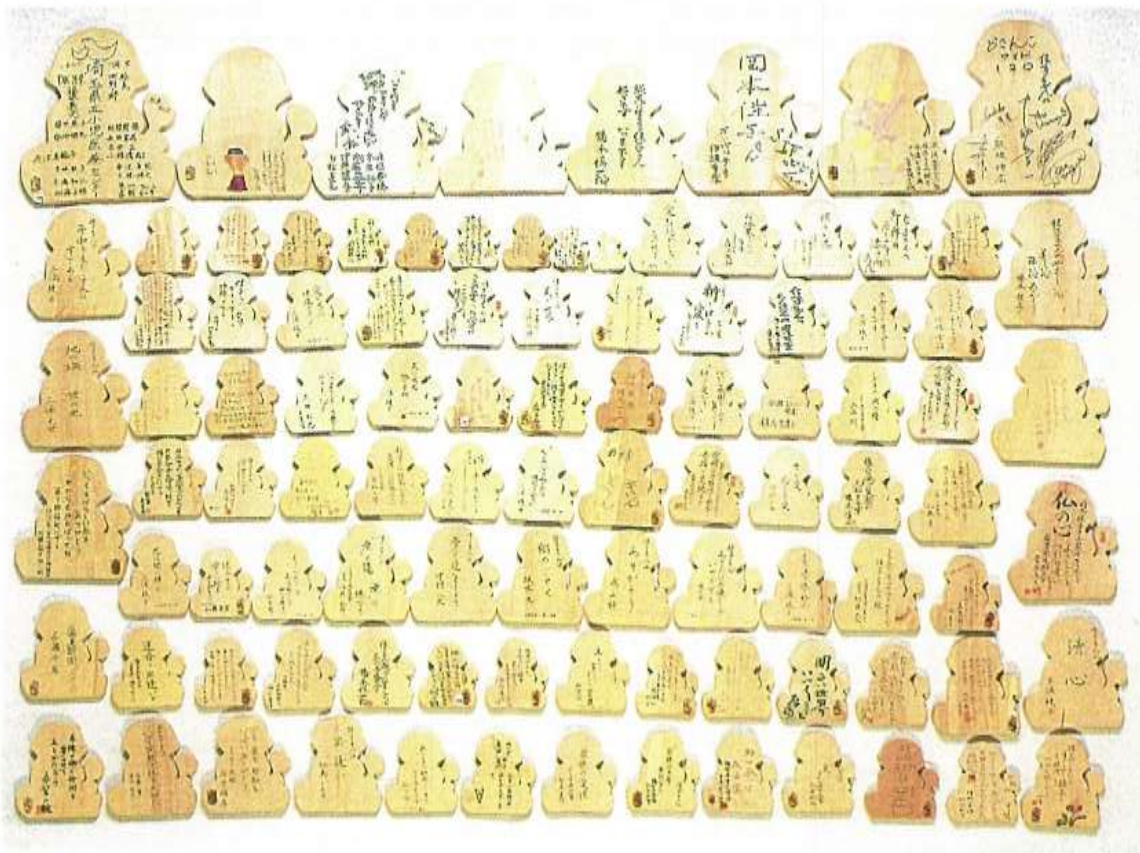
「木工屏風」

高さ約1.5尺、長さ合わせて6尺。左右それぞれ幅1尺の板3枚をつなげてある。左が「万華鏡で見たお地蔵さま」、右が「お地蔵さま」。14歳の時に制作にとりかかり、完成したのは17歳。実に4年がかりの労作。裏面には佳子の「おじぞうさん」の詩などが書かれている。



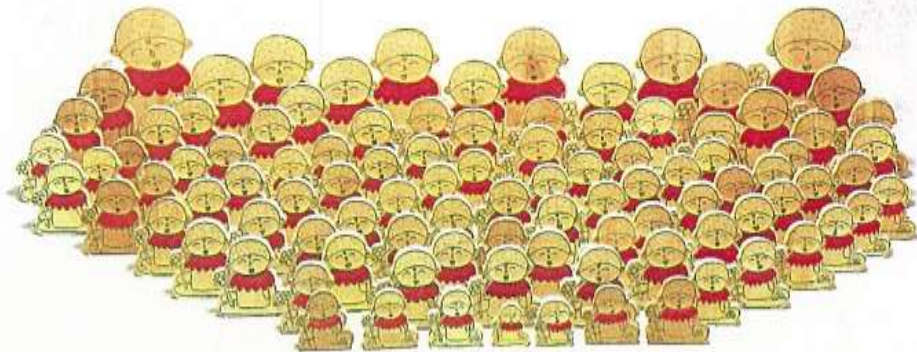
「紙製6面屏風」

高さ1.5尺、広げて立て掛けた長さは3尺を超える。木工屏風づくりの途中で手がけた、15歳の時の作品だ。



「出会いのおじろうさん」

各地で開催する個展などで出会った人たちとの記念の「木製おじろうさん」。表側におじろうさんの絵が描かれてあり、裏側がサイン面。高さ約11㍉から38㍉までいろいろあり、ただいま99枚。このうち約3割が三浦綾子さんやきんさん、ざんさんら著名人を含む人たちの自筆サイン、残りは坂本九さん(故人)や中村八大さん(同)、永六輔さんら交流のあった人たちから佳子さんにあてた色紙や手紙などからピックアップした言葉をボランティアが書き写したものだ。





金澤翔子さんホームページから
<http://k-shoko.org/>

書家
金澤翔子さん



津久井やまゆり園事件
この悲しみを力に、
ともに生きる社会を実現します

平成28年7月26日、障害者支援施設である
康立「津久井やまゆり園」において、大変痛ましい事件が発生しました。
このような事件が二度と繰り返されないよう、
私たちはこの悲しみを力に、増進した決意をもって、
ともに生きる社会の実現をめざし、
ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。

ともに生きる社会

翔子

ともに生きる社会
かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日 神奈川県

題字「ともに生きる」
ダウン症の女流書家 金澤翔子

本県の取り組みや金澤翔子さんの康立やまゆり園での
こころから「ともに生きる社会かながわ」

この憲章は神奈川県と神奈川県議会が共同して策定したものです。

問い合わせ先 神奈川県保健福祉局福祉部障害福祉課 電話 045-210-4703 FAX 045-201-2051



ともに生きる社会

翔子

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日

「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」

1 構成員

岩崎俊雄	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会副会長
久保野恵美子	東北大学大学院法学研究科教授
田中正博	全国手をつなぐ育成会連合会統括
中原由美	全国保健所長会 福岡県糸島保健福祉事務所長
平田豊明	千葉県精神科医療センター病院長
松田ひろし	特定医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院院長
松本俊彦	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長
村上優	独立行政法人国立病院機構榊原病院院長
◎山本輝之	成城大学法学部教授

※この他、内閣府、警察庁、法務省、文部科学省、厚生労働省、神奈川県、相模原市が関係省庁等として参画 (◎：座長)

2 検討の経緯

- 8月10日 検証・検討チームの立ち上げ
- 9月14日 「中間とりまとめ～事件の検証を中心として～」公表
- 10月24日 兵庫県精神・保健福祉センターを視察
- 10月31日 第7回検証・検討チーム（関係団体からのヒアリング）
- | | |
|---------------------|--------------------|
| ・社会福祉法人日本身体障害者団体連合会 | ・全国身体障害者施設協議会 |
| ・全国手をつなぐ育成会連合会 | ・公益社団法人日本知的障害者福祉協会 |
| ・全国「精神病」者集団 | ・公益社団法人日本精神科病院協会 |
| ・公益社団法人全国精神保健福祉会連合会 | ・日本多機能型精神診療所研究会 |
| ・公益社団法人日本精神保健福祉士協会 | |
- 11月14日 第8回検証・検討チーム
- 12月8日 報告書公表
- 厚生労働省の有識者会議（これからの精神医療保健福祉のあり方に関する検討会）において詳細な内容を検討

「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」報告書(概要)

1 共生社会の推進に向けた取組

検証を通じて明らかになった課題

- 今回の事件は障害者への一方的かつ身勝手な偏見や差別意識が背景
- 偏見や差別意識を払拭し、「互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会」の実現に向けた取組を進めることが不可欠

再発防止策の方向性

- 「障害者週間」、政府広報などあらゆる機会を活用し、政府の姿勢や障害者差別解消法の理念を周知・啓発
- 学校教育をはじめあらゆる場での「心のバリアフリー」の取組の充実
- 障害者の地域移行や地域生活の支援

2 退院後の医療等の継続支援の実施のために必要な対応

検証を通じて明らかになった課題

- 容疑者は、退院後に、医療機関や地方自治体から医療等の支援を十分受けられず
- 入院中から措置解除後まで、患者が医療等の支援を継続的に受け、地域で孤立することなく安心して生活できる仕組みの整備が必要

再発防止策の方向性

- 措置入院中から、都道府県知事等が退院後支援計画を作成(退院後支援の関係者による調整会議を開催)
- 措置入院先病院が退院後支援ニーズアセスメントを実施。その結果を都道府県知事等に確実に伝達
- 退院後は、退院後支援計画に沿って保健所設置自治体が退院後支援全体を調整(他の自治体に転出後も確実に引き継ぎ)
- 保健所等の人員体制等の充実

3 措置入院中の診療内容の充実

検証を通じて明らかになった課題

- 措置入院中の診療内容における留意事項が示されておらず、診断や治療方針の検討が不十分
- 医師の養成段階から生涯にわたる医学教育において、退院後支援や薬物使用に関連する精神障害に関する内容が不十分

再発防止策の方向性

- 国が措置入院中の診療内容のガイドラインを作成。診療報酬等の対応を検討
- 卒前・卒後教育の充実による専門知識を有する医師の育成

4 関係機関等の協力の推進

検証を通じて明らかになった課題

- 警察官通報が行われたもののうち、措置入院等につながった割合は地方自治体ごとにばらつき
- 措置入院の過程で認知された具体的な犯罪情報について、関係者間で情報共有する手続き等が協議されていない
- グレーゾーン事例(※)があることについて、関係者が共通認識を持つ必要
※ 他害のおそれが精神障害によるものか判断が難しい事例

再発防止策の方向性

- 措置診察等の判断に係るチェックポイントの作成
- 地域の関係者(自治体、警察、精神科医療関係者等)の協議の場(※)を設置
※ 措置診察に至るまでの地域での対応方針、具体的な犯罪情報を把握した場合の情報提供のあり方等
- グレーゾーン事例のうち、医療・福祉による支援では対応が難しいものについての他害防止の措置は、人権保護等の観点から極めて慎重であるべき

5 社会福祉施設等における対応

検証を通じて明らかになった課題

- 地域に開かれた施設という基本的な方針と安全確保の両立を目指す必要
- 容疑者は施設の元職員。施設の職員が、心身ともに疲弊して孤立することなく、やりがいや誇りを持って働ける職場環境づくりが重要

再発防止策の方向性

- 9月に発出された防犯に係る点検項目通知を踏まえた各施設の取組を支援
- 権利擁護の視点を含めた職員研修の更なる推進、処遇改善や心の健康管理面の強化等による職場環境の改善

掲載日：2017年6月15日

神奈川県障害者施策審議会 津久井やまゆり園再生 基本構想策定に関する部会（第9回）審議速報

様式2

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県障害者施策審議会 津久井やまゆり園再生基本構想策定に関する部会 (第9回)
開催日時	平成29年6月14日(水曜日) 10時00分から12時00分
開催場所	神奈川県庁本庁舎3階 大会議場(横浜市中区日本大通1)
(役職名)出席者	富田 祐(神奈川県本人の会「希望」副会長) 野口 富美子(神奈川県心身障害児者父母の会連盟幹事) 安藤 浩己(神奈川県知的障害福祉協会顧問) 伊部 智隆(社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会総務企画部参事) 〔部会長〕堀江 まゆみ(白梅学園大学教授) 〔副部会長〕堀越 由紀子(東海大学教授) 小川 喜道(神奈川県工科大学教授) 在原 理恵(神奈川県立保健福祉大学准教授)
次回開催予定日	平成29年7月4日
問い合わせ先	保健福祉局福祉部共生社会推進課再生グループ 後藤・尾崎 電話番号 045-210-1111 内線5032 ファックス番号 045-201-2051
会議の議題 及び結果	(1) 津久井やまゆり園の再生について (2) 今後の進め方について
「審議(会議)結果」の公開予定 時期	平成29年7月中旬

詳細は
別紙資料
を参照

津久井やまゆり園事件検証委員会

名称	津久井やまゆり園事件検証委員会			
設置根拠要綱等	津久井やまゆり園事件検証委員会設置要綱			
設置年月日	平成28年9月13日			
設置目的	平成28年7月26日に津久井やまゆり園で発生した事件について、事実関係を把握した上で、県や指定管理者である社会福祉法人かながわ共同会が行った対応について専門的な見地から検証し、今後の再発防止策を検討する。			
構成員数・選任期間	5人 ・ 平成28年9月13日から平成29年3月31日			
公募構成員の有無	無	選任していない理由	障害福祉施策、津久井やまゆり園を含む知的障害者施設の運営、指定管理者制度、施設の防犯対策等について、高度な専門的知識を有することが求められるため	
構成員の(役職)氏名	石渡 和実 東洋英和女学院大学教授(委員長) 市川 高弘 神奈川県知的障害施設団体連合会会長 大矢 武久 神奈川県知的障害者施設保護者連合会副会長 杉森 和夫 神奈川県防犯連絡会会長 高橋 温 弁護士(委員長職務代理者)			
意見を求める事項	津久井やまゆり園事件の対応に係る検証及び今後の再発防止策に関する事項、その他必要な事項 津久井やまゆり園事件検証報告書(平成28年11月25日) [PDFファイル/211KB]			
会議公開	原則非公開			
非公開理由	神奈川県情報公開条例(平成12年神奈川県条例第26号)第5条第1号及び第2号の規定に該当する事項について所掌するため			
会議開催日・会議記録等	第1回	平成28年9月21日(水曜日)	会議速報	会議結果
	第2回	平成28年10月5日(水曜日)	会議速報	会議結果
	第3回	平成28年10月20日(木曜日)	会議速報	会議結果
	第4回	平成28年10月27日(木曜日)	会議速報	会議結果
	第5回	平成28年11月9日(水曜日)	会議速報	会議結果
	第6回	平成28年11月17日(木曜日)	会議速報	会議結果
	第7回	平成28年11月22日(火曜日)	会議速報	会議結果
問い合わせ先	保健福祉局福祉部障害福祉施設指導グループ 担当 ニノ宮 電話番号 045-210-4705(直通) ファックス番号 045-201-2051			

「津久井やまゆり園 事件検証報告書」

平成28年11月25日
津久井やまゆり園事件
検証委員会

相模原市の障害者支援施設における事件を踏まえた 施策の進捗状況について

相模原市の障害者支援施設における事件

平成28年7月26日に相模原市の障害者支援施設(神奈川県立津久井やまゆり園)において、施設の元職員である男が侵入し、多数の入所者等を刃物で刺し、19人が死亡、26人が負傷した事件

1. 事件を受けた政府全体の動向

- 障害者施設における殺傷事件への対応に関する関係閣僚会議
 - ・ 構成員は、総理、官房長官、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣、国家公安委員長、法務大臣、文部科学大臣等
 - ・ 平成28年7月、12月に開催
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/syougai_jikentaiou/index.html
- 相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム
 - ・ 有識者、関係省庁等(内閣府、警察庁、法務省、文部科学省、厚生労働省、神奈川県、相模原市)で構成
 - ・ 平成28年8月以降、合計8回開催
 - ・ 同年9月に「中間とりまとめ」を、12月に「報告書」をとりまとめ
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syougai.html?tid=373375>
- 障害者白書
 - ・ 平成29年6月13日閣議決定
 - ・ 第1編を「共生社会の実現に向けて」とし、共生社会の実現に向けた取組等について報告
<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html>

相模原市の障害者支援施設における事件を踏まえた 施策の進捗状況について

2. 共生社会の推進

- 障害を理由とする差別の解消に向けた地域フォーラムの開催(内閣府の取組)
 - ・ 平成28年9月に横浜市で開催されたフォーラムでは、加藤大臣から、命の尊さや共生社会実現の重要性について発信
 - ・ 平成28年度は全国15か所で開催
http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/forum/kaisai_h28.html
- 政府広報を活用した意識啓発(内閣府の取組)
 - ・ 新聞広告の掲載、動画番組の配信
- 障害者週間におけるシンポジウムの開催(内閣府の取組)
 - ・ 12月3～9日の「障害者週間」事業の一環として、真の共生社会とは何かを改めて問うシンポジウムを平成28年12月に開催
<http://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/h28shukan/event.html#forum>
- ユニバーサルデザイン2020行動計画
 - ・ 平成29年2月、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が関係閣僚会議において決定
 - ・ 「心のバリアフリー」に向けた取組等がとりまとめられた
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/ud2020kkaigi/
- 大臣からの共生社会についての発信
 - ・ 会議、閣議後記者会見、国会などにおいて、厚生労働大臣から、「差別をなくし、全ての人々がお互いの人格と個性を尊重し合いながら共生できる社会」の実現について、繰り返し発信
- 「心のバリアフリー」推進事業
 - ・ 平成29年度予算において、地域生活支援促進事業として、「心のバリアフリー」推進事業を創設
 - ・ 管内市町村での理解促進研修・啓発事業の取組の広域的な調整等を都道府県が行うにあたり、国として支援
- 障害福祉計画・障害児福祉計画に関する基本指針
 - ・ 平成29年3月に告示した障害福祉計画・障害児福祉計画に関する基本指針において、以下の内容を盛り込んだ
 - ✓ 入所・入院から地域生活への移行、地域生活の継続の支援
 - ✓ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築
 - ✓ 地域共生社会の実現に向けた取組

相模原市の障害者支援施設における事件を踏まえた 施策の進捗状況について

3. 社会福祉施設の安全確保

- 社会福祉施設等の安全確保に向けた点検項目
 - 平成28年9月に通知を发出
<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000137379.pdf>
平成29年1月に実態調査を実施
<http://www.irric.co.jp/reason/research/>
- 防犯のための施設整備への支援
 - 平成28年度第2次補正予算 予算額：118億円
 - ✓ 防犯分実績：2,945件、25.5億円
 - 平成29年度予算 予算額：71億円

4. 社会福祉施設の職場環境の改善等

- 職員の処遇改善
 - 平成29年度の障害福祉サービス等報酬改定を行い、月額1万円相当の処遇改善を実施
- 労働環境の整備
 - ミーティング等による職場内コミュニケーションの円滑化やこころの健康管理面の強化を推進
- 研修の更なる推進
 - 職員の資質向上を図るための各種研修の実施
- 障害福祉計画・障害児福祉計画に関する基本指針
 - 平成29年3月に告示した障害福祉計画・障害児福祉計画に関する基本指針において、以下の内容を盛り込んだ
 - ✓ 利用者の安全確保に向けた取組
 - ✓ 事業所における研修等の充実

相模原市の障害者支援施設における事件を踏まえた 施策の進捗状況について

5. 退院後支援等の精神保健医療福祉分野での強化

- 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律案
＜審議経過＞
 - 2月28日 閣議決定、国会提出
 - 4月7日 参議院本会議において審議入り
 - 5月16日 参議院厚生労働委員会において修正(別紙2)の上可決(附帯決議あり、別紙3)
 - 5月17日 参議院本会議において可決
 - 6月18日 国会閉会に伴い、継続審議
＜主な論点＞
別紙1のとおり
- ガイドライン等の作成(名称は全て仮称)
以下のガイドライン等を作成中
 - 措置入院の運用ガイドライン(厚生労働科学研究班で作成中)
 - 措置入院の退院後支援ガイドライン(厚生労働科学研究班で作成中)
 - 精神障害者支援地域協議会に係る運用通知
 - 措置入院の診療ガイドライン(厚生労働科学研究班で作成中)
- 保健所・精神保健福祉センターの人員体制の充実
 - 平成29年度から、全国の自治体で200人程度の精神保健福祉士を新たに雇い入れることが可能な地方交付税措置を講じた
- 卒前・卒後教育の充実
 - 「医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)」において、「地域復帰後の医療等の継続的な支援の企画」や「薬物使用に関連する精神障害」に関する教育が充実するよう、学修目標の追加等を行った
 - 医道審議会医師臨床研修部会及び医師臨床研修制度の到達目標・評価の在り方に関するワーキンググループにおいて、臨床研修の到達目標に薬物等依存症を含む項目として「依存症」を位置づけることを検討中
 - 指定医研修会の研修内容に、「地域復帰後の医療等の継続的な支援の企画」や「薬物使用に関連する精神障害」に関する内容を加えることを検討中



この夏、日本では、ショックな事件が起こりました。7月26日の夜中に、神奈川県で暮らしている私たちと同じように障害を持つ19人の仲間が亡くなりました。私が、この事件を知ったのは、朝のテレビのニュースでした。寂しさと悔しさで涙が止まりませんでした。

犯人が衆議院議長に送った手紙の中に、私がとてもショックを受けた言葉があります。

「障害者はいない」私は、この言葉を聞いて、心が壊れました。

あの事件から、3ヵ月が過ぎました。テレビや新聞などでは、この事件が、まだ報道がされています。私も、テレビや新聞などに、取材されることがあります。障害者に関係する人たちと、この事件について話し合いもしています。



テレビや新聞などで、世界の国では、弱い立場にある多くの人や動物の命が奪われていることを、最近知りました。

世界中で、何が起きているのかを知り、理解することがとても大切だと思いました。

私なりに今回の事件を通じて、色々な事を考えました。障害者権利条約第10条に「生きる権利」が書いてあります。この事は大切なことだと思います。寂しいことや辛いことが、この先もあると思いますが、今回の事件で亡くなられた仲間たちの命の分まで、生きることが大切だと感じています。



世界中の方から、励ましの手紙やメールを
沢山いただきました。全国手をつなぐ育成
会連合会、障害のある仲間たちとその家族
に、「これからもがんばりましょう」と
言ってくれました。

本当にありがとうございました。これから
も応援よろしくお願いします。

最後に、今回の事件で犠牲になった方たち
と、近年なくなられた国際育成会連盟の世
界の友達のために黙とうを捧げたいと思っ
ます。皆さん立って頂けますか 黙とう



横浜の奈良崎さんが国際育
成会連盟の総会でメッセージ
と黙祷を呼びかける

■障害者でよかった、今思う 奈良崎真弓さん(本人会サンフラワー会代表)

事件はテレビのニュースで知りました。「障害者なんていなくなればいい」と植松聖(さとし)容疑者が話していると知り、心が壊れました。

小学5年の時のことを思い出しました。授業についていけなくなった私に、友だちは「死ね」「障害者はいらぬ」と言い、離れていきました。とてもショックでした。二十数年忘れていた言葉が心にグサツときて、2日間、嘔吐(おうと)と寒気に襲われました。

家族と暮らす自宅から週に4日働いている花屋へ行く途中、誰かから同じことを言われるのではと。怖い。今も夜中に目が覚める。事件が起きた施設にいたらどうなっていたのか。「助けて」と言えただろうか。妄想してしまう。

植松容疑者が障害者の命を否定したことは許せません。でも、事件を予告した時、なぜ周りの人が注意しなかったのでしょうか。植松容疑者の人生がダメになったのは、もったいない。怒りというより悲しいです。

障害者がいなくなればいいと思うことはたぶん、みんなにあると思います。でも障害者が本当にいなくなったら、どんな社会になるんだろう？ みんな年をとると体が動かないことがありますよね。事故で体が不自由になるかもしれない。その時、「あなたはいらぬ」と言われたらどう思いますか？ ぴんぴん元気な人ばかりだったらロボットの世界のようだと思いませんか？ 街や駅の[バリアフリー](#)もないかもしれません。

月に一度、知的障害者の本人が集う会を開いています。仕事や年金、住居、恋愛といった悩みを話し合っアドバイスしたり、法律を勉強したり。家に閉じこもりがちな人には「怖くても飛び出してみようよ。誰かがきみを支えてくれる」と励まします。街に出て障害のない人が私たちと出会う機会が増えれば、お互いを大事にできると思う。

障害があるとかないとか関係なく、一緒に笑ったり感動したり、時には泣いたり怒ったり。それだけで、人は生きている価値があるんじゃないでしょうか。あるがままの命の重さを感じられるんじゃないかと思うんです。がんばらなくていい。笑ったり泣いたりできない人には「どうしたの？」と寄り添えばいい。

専門用語や長い文章はわかりづらいし、難しい漢字は書けません。頭の中で計算するのも苦手。障害がない自分になりたいと思ったことは何度もあります。

でも、親身に支えてくれる人や、顔の筋肉は動かないけれど目を開けて「きょうも生きている！」と感動させてくれる知的障害と身体障害のある男性など、さまざまな人と出会い、人は一人ひとり違っていいと実感できた。だから今、こう思うんです。障害者でよかった、と。(聞き手・森本美紀)

ならぎまゆみ 78年生まれ。知的障害があり、当事者の視点から発信を続ける。自治体の施策作りに関わり、海外で活動も。

朝日新聞 2016年8月26日05時00分

(耕論)障害があっても 奈良崎真弓さん、浅野史郎さん、雨宮処凜さん から奈良崎さん分抜粋



(ひと)奈良崎真弓さん

相模原事件を語る会を主宰する知的障害者

2017年1月19日05時00分 朝日新聞から

• [奈良崎真弓さん](#)

「私いま壊れそう」。昨年7月に[相模原市](#)の施設で知的障害のある19人が刺殺された翌日、知人にそうメールを送った。そして考えた。「こんな事件が起こるのは、知的障害者は何もできないと思われているから。事件への思いを障害者本人の言葉で伝えたい」

NHK教育テレビ バリバラに出演した土本さんがスピーチし意見交換をする。



当事者の集会11月 ちえりあ
一般市民も多数参加した。

7月23日(日)ちえりあ 13:30~16:30
津久井やまゆり園事件 19のいのちを忘れない集会

津久井やまゆり園殺人事件命を奪うことは許さない！

私たちは、北で生きている

2016年7月26日、朝のテレビニュースで事件のことを知りました。

なぜ、なかまは殺されたのかと驚き、混乱しました。

やまゆり園の仲間たちは、こわくて、悲しかったと思います。

そんな気持ちを思うとたまらないです。

犯人は、施設の元職員で衆議院議長の手紙や警察の取り調べで「障害者を抹殺する」「障害者なんていなくなればいい」と言っています。

ショックと今まで感じたことが無い怒りを覚えました。

犯人は、19人も殺して良い気持ちになれたのか。

仲間や支援者、全ての人に伝えたい。

私たちは、障害をもって生まれてきました。

私たちは、価値の無い人ではありません。

私たちが「劣っている」と誰が決めているのか。

うまくいくことも、思い通りになることもほとんどない。その繰り返し。

誰かにぶつけることも出来ない。

でも、私たちは、いろんな人の支援を受けながら、色々なことができる

のです。みんな、一生懸命生きています。

入所施設は、殺す場所でも戻って、生活する場所でもありません。

入所施設には、2重3重の見えない壁があります。

建てかえるという親、行政、施設の職員に聞きたい。

誰のための施設なのか。誰の意見なのか。

親、行政、施設の職員は、当事者にはなれません。

入所施設は、いらない！

私たちに関係する事件なのに、私たちの声は社会に届きません。

発言出来る場合は、ほんの一部です。

話すこと、書くことが、苦手でも感じています。

この事件をきっかけに人の命の大切さを考えなおす必要があります。

声を上げることが難しいなかまの声も聴いていく必要があります。

仲間心の傷をケアすることが必要です。

私たちにできることは、いっぱい いっぱい進むこと。

自分たちは、障害のないと言われる人とおなじ血が流れている。

私たちは障害者である前にひとりの人間です。

2016年11月13日
きたかぜ かい かい いん いち どう
北風の会 会員一同

相模原殺傷事件から4カ月

相模原市の知的障害者施設で19人が刺殺された事件から4カ月となる26日、障害者でつくる団体「札幌みんなの会」(札幌市東区)が、事件について語り合う集いを札幌市生涯学習総合センターちえりあ(西区宮の沢1の1)で開く。「自分たち当事者の声を市民に伝えたい」と会場を呼びかけている。



集いのチラシを手に「障害がある人や支援者、市民のみなさんに来てほしい」と語る土本秋夫さん

障害者の思い 自分で伝えたい

相模原市の知的障害者施設で19人が刺殺された事件から4カ月となる26日、障害者でつくる団体「札幌みんなの会」(札幌市東区)が、事件について語り合う集いを札幌市生涯学習総合センターちえりあ(西区宮の沢1の1)で開く。「自分たち当事者の声を市民に伝えたい」と会場を呼びかけている。

「みんなの会」あす集会 札幌

「障害がある人や支援者、市民のみなさんに来てほしい」と語る土本秋夫さん(60)が「みんなの会」を主催する。とうすれば事件を二度と起かさないように、来場者と意見交換する。土本さんは「メディアが紹介するのは親や行政、有識者の意見ばかり。障害者である自分が思いを伝えたい」と話している。集会は午後6時15分から。定員72人で参加無料。問い合わせはみんなの会事務局の共生支援部011・748・8455へ。(本郷由美子)

相模原の悲劇 障害者の声発信

事件から4カ月「札幌みんなの会」が集会



相模原で起きた事件について障害者が意見を交換した集会

相模原市の知的障害者施設で19人が刺殺された事件から4カ月となった26日、札幌市や近郊の障害者でつくる「札幌みんなの会」は「当事者の意見をもっと聴いて」集会を札幌市西区の生涯学習総合センターちえりあで開いた。

障害者が事件について声を発信しようと初めて企画した。家族や支援者を含め約60人が参加し、事件を取り上げたテレビ番組を見た後、自由に意見交換した。

「障害がある人への差別感や嫌悪感が凝縮し、悲劇が起こった。施設に住むより、一人一人が地域に住んだ方が安全では」「命は授けられたもの。命だけはなくしてもらいたくない」など話した。

会長の三浦正孝さん(55)は「北海道の障害者施設で同じことが起いたら、どうなるのだろうと思う。障害者同士が連携し、どう対応できるか考えたい」と話した。同会は今後、も同様の集いを開く予定。(本郷由美子)

津久井やまゆり園で
献花に行った土本さんたち



NHKテレビ 2017.1.26

津久井やまゆり前で取材を受ける土本さん

